

CentreCOM® 9812T/9816GB リリースノート

この度は、CentreCOM 9812T/9816GB をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl15 (2.5.1-15)

2 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl14 から 2.5.1 pl15 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。

2.1 ハードウェアバケットフィルター

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアバケットフィルター」

スイッチ本体 (CPU) 発のバケットに対して、IPSADDR、IPDSCP、IPTOS のいずれかを条件に含むフィルターが適用されなくなりました。

2.2 DVMRP

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

Internet Draft の「Appendix C」(古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目) に対応しました。

2.3 IGMP

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

Group Membership Interval (Timeout Interval) のデフォルト値を RFC に準拠し、260 秒に変更しました。

3 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl14 から 2.5.1 pl15 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

3.1 NVS 上のシステムファイル保護機能において、enabled.sec が NVS 上にだけ存在する状態でシステムを再起動すると、同ファイルがフラッシュメモリーにコピーされませんでしたが、これを修正しました。

3.2 ログの出力先 "TEMPORARY" を削除後、SHOW DEBUG コマンドを実行するとシステムが正しく動作しないことがありましたが、これを修正しました。

- 3.3 本製品のシステムクロックと NTP サーバーのクロックの間に 34 年 9 日 10 時間以上の差がある場合、本製品の NTP クライアントは NTP サーバーに同期できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.4 GBIC モジュール (AT-G8T、AT-G8SX、AT-G8LX、AT-G9ZX) を実装したポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、指定したポートが物理的にリンクダウンし、LINK LED が消灯していましたが、これを修正しました。
- 3.5 ADD SWITCH HWFILTER コマンドにおいて、CLASSIFIER パラメーターに IPSADDR を条件に含むクラシファイアを指定し、ACTION パラメーターに FORWARD を指定した場合、条件にマッチする OSPF、RIP パケットが CPU に転送されませんでした。これを修正しました。
- 3.6 ハードウェアパケットフィルターの設定において、包含関係にあるネットワークアドレスを条件とするエントリを複数作成した場合、内部テーブルに重複したエントリが登録され、エラーメッセージが表示されることがありましたが、これを修正しました。
- 3.7 ADD SWITCH HWFILTER コマンドで DPORT に 13 を指定した場合、CPU 宛てのパケットがフィルターにマッチすると破棄されていましたが、これを修正しました。
- 3.8 インターフェース経路をダイナミックルーティングプロトコル経由でも学習している場合、該当するインターフェース経路がダウンして再度アップした場合、IP パケットを正しくルーティングできないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.9 DHCP クライアントとして設定した IP インターフェースを、ADD IP ROUTE コマンドの INTERFACE パラメーターに指定した場合、この経路設定を CREATE CONFIG コマンドで保存できませんでしたが、これを修正しました。
- 3.10 ディレクティッドブロードキャストフィルタリング有効時 (デフォルト有効)、ディレクティッドブロードキャストパケットを連続して受信すると、CPU 負荷率が上昇することがありましたが、これを修正しました。
- 3.11 RIP バージョン 2 の経路情報を送信するとき、Nexthop フィールドに正しいアドレスをセットしませんでした。これを修正しました。
- 3.12 RIP バージョン 2 の経路情報を受信したとき、Nexthop フィールドで指定されたアドレスに対する ARP の解決がなされていないと、該当経路を経路表に登録しませんでした。これを修正しました。
- 3.13 OSPF において、ASBR として動作する本製品に対して、デフォルトルートの AS 外部経路を AS 内に通知するよう設定している場合、RESET OSPF コマンドを実行するとリブートすることがありましたが、これを修正しました。
- 3.14 OSPF において、他のルーターから受信した AS 外部経路のネクストホップと受信インターフェースが同一サブネットになる場合、ネクストホップの ARP 解決がなされていないと該当経路が IP の経路表に追加されませんでした。これを修正しました。

- 3.15 OSPF において、特定の宛先に対して、エリア間経路と AS 外部経路の両方が存在している場合、エリア間経路がダウンして AS 外部経路だけになると、AS 外部経路の情報が IP の経路表に追加されませんでしたが、これを修正しました。
- 3.16 OSPF において、ABR として動作する本製品にスタブエリアを設定した場合、設定保存後システムを再起動すると、スタブエリアにデフォルトルートを通知なくなりましたが、これを修正しました。
- 3.17 既に OSPF 経路が存在する場合に、その経路に対して IP ルートフィルタを設定すると正しく動作しないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.18 本製品と相手機器双方の Neighbour キャッシュが空の状態、相手機器から本製品に向けてデータ長 1453 Byte 以上の IPv6 PING を実行すると、本製品がリブートすることがありましたが、これを修正しました。
- 3.19 ICMPv6 Address Unreachable または No Route To Destination メッセージの送信に時間がかかることがありましたが、これを修正しました。
- 3.20 Path MTU Discovery が有効のとき、本製品が送信する ICMPv6 Packet Too Big メッセージ内の MTU フィールドに正しい値がセットされなかったことがありましたが、これを修正しました。
- 3.21 IPv6 フィルターでパケットを破棄しても、SHOW IPV6 FILTER コマンドで表示される統計カウンター「Fails」がカウントされませんでした。これを修正しました。
- 3.22 IGMP、IGMP Snooping の badQuery、badRouterMsg カウンターがカウントされないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.23 VRRP において、バーチャル IP アドレスを所有しているマスタールーター上で RESET IP コマンドを実行すると、マスタールーターがバーチャル MAC アドレス宛てのパケットを処理できなくなりましたが、これを修正しました。

4 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.5.1 pl15 には、以下の制限事項があります。

4.1 コンパクトフラッシュについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

- SHOW CFLASH コマンドでコンパクトフラッシュカードのシリアル番号を表示すると、表示されたシリアル番号の前に不要なスペースが入ります。シリアル番号は正しく表示されていますのでスペースは無視してください。
- コンパクトフラッシュから本製品内蔵のフラッシュメモリーにファイルをロードする場合、ENABLE IP コマンドで IP モジュールを有効にする必要があります。

4.2 NVS 上のシステムファイル保護機能について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

CLEAR NVS TOTALLY コマンド実行後など、prefer.ins がフラッシュメモリー上にだけ存在する状態でシステムを再起動すると、ファームウェア構成情報が読み込まれず、EPROM からシステムが起動します。CLEAR NVS TOTALLY コマンド実行後は、SET INSTALL コマンドでリリースファイル（とパッチファイル）を指定しなおしてください。

4.3 ログについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

- DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター（保存するメッセージの最大数）に 92 以上の値を指定すると正しく動作しません。MESSAGES パラメーターに指定する値は 91 までにしてください。
- CREATE LOG OUTPUT コマンドの QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY パラメーターが機能しません。
- SET LOG OUTPUT コマンドの MESSAGES パラメーターで TEMPORARY ログに保存するメッセージ数を変更すると、SHOW LOG コマンドで TEMPORARY ログが正しく表示されなくなります。このようなときは、設定を保存したのち、システムを再起動してください。

4.4 スクリプトについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「スクリプト」


- スクリプトにグローバルな特殊変数を使用した場合、IF THEN ELSE 文で使用する文字列比較演算子 EQ（等しい）および NE（等しくない）は、文字列の先頭 2 文字しか比較しません。したがって、「AAAA」と「AABB」を比較すると、同一の文字列であると判断してしまいます。この問題を回避するには、先頭 2 文字で違いを判断できるような文字列を使用してください。
- スクリプトに変数 %T、%N、%S を使用した場合、IF THEN ELSE 文で EQ を指定しても 2 つの文字列が等しいときに真を返すという動作になりません。

4.5 トリガーについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「トリガー」

- CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数を指定した後、設定をファイルに保存すると、設定ファイル上の REPEAT パラメーターの値が入力時とは異なる場合があります。
- メモリートリガーが正しく動作しません。

4.6 SNMP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- dot1dStpRootPort, dot1dStpPort, dot1dTpFdbPort, dot1dTpPortのポート番号が正しく表示されません。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards (MIB-II) がカウントされます。

4.7 NTP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

- NTP パケットの Root Dispersion フィールドにマイナスの値をセットしてしまうことがあります。
- Windows XP 標準の NTP クライアントから NTP 要求を受信しても応答しないことがあります。

4.8 SET TELNET コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」


SET TELNET コマンドをパラメーターなしで実行すると（単に「SET TELNET」と入力すると）、SHOW TELNET コマンドと同じ動作になります。

4.9 SET TTY コマンドの PAGE パラメーターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できません。

4.10 RESET SWITCH PORT コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


RESET SWITCH PORT コマンドは、1000BASE-SX ポート、および AT-G8SX、AT-G8LX、AT-G8T、AT-G9ZX の GBIC ポートに対しては使用できませんが、現状これらのポートに対しても本コマンドがエラーにならずに受け付けられます。

4.11 ポートミラーリングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


ソースポートの所属 VLAN から送信される予約 IP マルチキャストパケット（OSPF、IGMP、PIM 等）がミラーポート自身からも送信されます。

4.12 ポートセキュリティについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


INTRUSIONACTION=TRAP に設定したとき、一度 SNMP トラップを送信すると、その後不正パケットを受信してもトラップを送信しなくなります。

4.13 ポート帯域制限機能について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


SET SWITCH PORT コマンドの EGRESSLIMIT パラメーターでポート帯域制限（送信レート上限値）の設定をした場合、コマンド入力直後は正しく帯域制限されますが、設定保存後に再起動すると帯域制限が機能しなくなります。再起動トリガーを使用するなどして、再起動後に EGRESSLIMIT を設定しなおすようにしてください。

4.14 スパニングツリープロトコルについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」


ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドの設定が削除されます。

4.15 ポリシーベース QoS について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポリシーベース QoS」

- QoS 対象スイッチポートに設定されている通信速度と、実際の通信速度が同一であるにもかかわらず、Warning（警告）のメッセージが表示される場合があります。この警告は無視してください。
- ADD QOS FLOWGROUP コマンドで同じエントリーを複数入力できてしまいます。また、その後 SET QOS PORT コマンドを実行するとリポートすることがあります。同じエントリーを複数入力しないようにしてください。
- CREATE/SET QOS TRAFFICCLASS コマンドの MINBANDWIDTH、MAXBANDWIDTH パラメーターに 64Kbps の倍数でない値を指定した場合、内部的な設定値は 64Kbps の倍数になるよう丸められますが、そのことを示すメッセージが表示されません。また、SHOW QOS TRAFFICCLASS コマンドの「Min Bandwidth」、「Max Bandwidth」欄には、丸めた後の実際の設定値ではなく、コマンド入力時に指定した値が表示されます。

4.16 ハードウェアパケットフィルターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」


ADD SWITCH HWFILTER コマンドにおいて、CLASSIFIER パラメーターに DVLAN または PROTOCOL=ARP を条件に含むクラシファイアを指定し、ACTION パラメーターに FORWARD を指定した場合、DPORT パラメーターにポート 1 が含まれていると、条件にマッチする ARP パケットが破棄されます。クラシファイアが DVLAN を条件としている場合、DVLAN 内に 2 つ以上リンクアップしているポートがあれば本現象は発生しません。また、クラシファイアが PROTOCOL=ARP を条件としている場合、システム全体で 2 つ以上リンクアップしているポートがあれば本現象は発生しません。

4.17 ICMP メッセージについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

4.18 TRACE コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

- TRACE コマンドの実行完了前に次の TRACE を実行すると、本製品がリポートすることがあります。最初の TRACE が完了するのを待つか、STOP TRACE コマンドで最初の TRACE を中断してから次の TRACE を実行してください。
- SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがあります。

4.19 IP 統計情報の表示について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

- ICMP アドレスマスク応答メッセージ受信時に、SHOW IP COUNTER コマンドで表示される inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。
- ファイアウォール (AT-FL-10) 有効時、SHOW IP COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンター (ifInPkts, ifInBcastPkts, ifInUcastPkts, ifInDiscards) に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。
- IP チェックサムエラーのパケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドで表示される inHdrErrors カウンターがカウントされません。

4.20 BGP-4 (AT-FL-09) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

ダウンした経路の取り消しをピアに通知した後、該当経路を BGP の経路表から削除する前に同経路が再びアップしても、その経路をピアに再広告しません。

4.21 DNS サーバーアドレスの動的取得について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されません。

4.22 DNS キャッシュについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

4.23 スタティック ARP エントリーについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

- マルチホーミングしたIPインターフェース上にスタティックARPエントリーを登録する場合、存在しない論理インターフェースを ADD IP ARP コマンドの INTERFACE パラメーターに指定すると、システムがリブートします。存在しないインターフェースを指定しないようご注意ください。
- スタティック ARP エントリーを登録したポートでケーブルを抜き差しすると、該当アドレス宛でのユニキャストパケットがフラッディングされます。

4.24 UDP ブロードキャストヘルパーについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「UDP ブロードキャストヘルパー」

UDP ブロードキャストパケットの転送先は 32 個まで設定可能ですが、コマンドを入力した後、設定を保存して再起動するまでは、28 個目までしか機能しません。また、設定保存後に再起動しても 31 個目までしか機能しません。

4.25 IPv6 インターフェースの設定について (AT-FL-11)

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「IPv6 インターフェース」

ADD IPV6 INTERFACE コマンドの IPADDRESS パラメーターにリンクローカルアドレスを指定した場合、設定を保存しても再起動後に消去されます。再起動トリガーを使用するなどして、再起動後に設定しなおすようにしてください。

4.26 6to4 トンネルインターフェースの作成について (AT-FL-11)

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「IPv6 インターフェース」

- ADD IPV6 6TO4 コマンドで 6to4 トンネルインターフェースを作成したとき、「v6 over v4 tunnel successfully」と表示されます。
- ADD IPV6 6TO4 コマンドで同じ IP アドレスを持つ 6to4 トンネルインターフェースを複数作成できてしまいます。

4.27 ルーター通知 (RA) について (AT-FL-11)

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

SET IPV6 ND コマンドの RETRANS パラメーターに 1 ~ 99 の値を指定した場合、ルーター通知 (RA) の Retrans Timer フィールドには 100 (ミリ秒) がセットされます。


4.28 DVMRP について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

- IGMP Snooping 無効時、クライアントから IGMP Report メッセージを受信しても、該当ポートを DVMRP の転送表 (転送キャッシュ) に登録しないことがあります。


- SHOW DVMRP コマンドの COUNTERS オプションにおいて、Prune パケット送信数 (Send Pkts) に実際の 2 倍の値が表示されます。

4.29 PIM-DM/PIM-SM について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」


インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。

4.30 IGMP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

- IGMP が有効で、IGMP Snooping が無効のとき、マルチキャストデータがフラッディングされません。
- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Leave メッセージを受信すると、同タイマーが更新されます。
- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。

4.31 MLD Snooping (AT-FL-11) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「MLD Snooping」

MLD パケットを運ぶ IPv6 パケットの Hop-by-Hop オプションヘッダーにおいて、Router Alert オプションが、Router Alert → パディング (PadN) の順に配置されている場合、本製品の MLD Snooping (AT-FL-11) 機能はこれを不正パケットと認識してしまうため、メンバーを登録できません。PadN → Router Alert の順で配置されている場合は正しく認識します。

4.32 ファイアウォール (AT-FL-10) について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

- TCP SYN パケットの代理応答が有効にもかかわらず、TCP ヘッダーに ECE フラグが設定されたパケットを受信した場合、ACK を返さずに、転送します。
- TCP SYN パケットの代理応答無効時に、TCP SYN + ACK パケットが VLAN を越えるとシーケンス番号が 0 (ゼロ) になります。
- 不正な ACK 番号を持つ TCP セグメントに対しても ACK を返します。
- ファイアウォールポリシーにアクセスリストを登録する場合、IP アドレスリストよりルール番号の大きい MAC アドレスリストは有効になりません。MAC アドレスリストのルール番号は IP アドレスリストのルール番号よりも小さくなるように設定してください。

4.33 DHCP サーバー機能について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

- DHCP サーバー機能とローカル IP インターフェース (SET IP LOCAL コマンド) を併用した場合、DHCP OFFER メッセージを再送するときにローカル IP インターフェースの IP を使用せず、パケットを送出するインターフェースの IP を始点 IP アドレスとして使用します。
- MacOS X など一部の OS を搭載したコンピューターがスリープ状態から復帰するときに IP アドレスを取得できない場合があります。このようなときは、リースされている IP アドレスを一度解放し、再度取得させるようにしてください。
- DHCPREQUEST を拒否した (DHCPNAK を返送した) ときに記録されるログメッセージ内の IP アドレス (DHCPREQUEST の送信元) が正しくありません。本現象はログだけの問題であり、DHCPNAK の送出手続きには問題ありません。

4.34 DHCP ポリシーの ON/OFF 指定パラメーターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」 / 「DHCP ポリシー」

ADD/SET DHCP POLICY コマンドの以下のパラメーターが指定した値と逆の動作をします (ON を指定した場合は OFF、OFF を指定した場合は ON)。ON と OFF を逆に指定するようにしてください。

ETHERENCAP, MASKDISCOVERY, MASKSUPPLIER, ROUTERDISCOVERY,
SUBLOCAL, TCPGARBAGE, TRAILERENCAP

4.35 DHCP レンジの設定について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」 / 「DHCP レンジ」

ADD DHCP RANGE コマンドの IP パラメーターにネットワークアドレスを指定しないでください。192.168.1.0 など通常割り当てられてはいけなネットワークアドレスが DHCP クライアントに割り当てられてしまいます。

5 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

付属の「取扱説明書」、および「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C)の補足事項です。

5.1 HTTP サーバー（サポート対象外）について

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

5.2 ポートのリンクアップ時のログ表示について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

スイッチポートの速度が変わったときに、SHOW LOG コマンドで表示されるログに、下記のようなメッセージが記録される場合がありますが、動作に問題はありませので、このメッセージは無視してください。

Parameter EGRESSLIMIT, value has been rounded to XXXX

5.3 SNMP について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- SHOW BUFFER コマンドの表示とホストリソース MIB の hrStorageUsed では、メモリー使用量が若干異なります。これは、SNMP Get Request への応答にもメモリーを使うためです (hrStorageUsed の値は、このときの消費量を差し引いた値になります)。
- SNMP コミュニティ名に、記号類 (!#\$% など) は使用できません。

5.4 ポートミラーリングについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

本製品は、受信パケットのミラーリングだけが可能です。送信パケットのミラーリングには対応していません。以前のドキュメントには記載されておりませんが、本仕様は 2.5.1 pl15 を含むすべてのソフトウェアバージョンに適用されます (「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C) において追記されました)。


ソースポートの設定をするときは、SET SWITCH PORT コマンドの MIRROR パラメーターに RX か NONE のどちらかを指定してください。TX や BOTH を指定してもエラーにはなりません。これらを指定した場合の動作はサポート対象外となります。TX と BOTH は指定しないでください。

未サポートコマンドおよびパラメーターについては、本リリースノートの「6 未サポートコマンド (機能)」をご参照ください。また、設定コマンドの詳細については「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C) をご覧ください。

5.5 イングレスフィルタリングについて


本製品はイングレスフィルタリングをサポートしていないため、受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、パケットは破棄されません。

5.6 ポリシーベース QoS について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポリシーベース QoS」

CREATE/SET QOS TRAFFICCLASS コマンドでは、MINBANDWIDTH、MAXBANDWIDTH パラメータの指定値が 64Kbps の倍数でない場合、内部的な設定値は指定値よりも小さい直近の倍数に丸められます（例：指定値 = 65Kbps → 実際値 = 64Kbps、指定値 = 63Kbps → 実際値 = 0Kbps）。このため、MAXBANDWIDTH パラメータに 63Kbps 以下の値を指定すると、最大帯域が 0 となり、該当するトラフィックの通信ができなくなるので注意してください。

5.7 ハードウェアパケットフィルターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

- DVLAN を条件とするエントリーと SVLAN を条件とするエントリーがある場合、DVLAN と SVLAN の両方にマッチするパケットには、エントリーの順序とは関係なく、DISCARD アクションのエントリーが優先的に適用されます。

たとえば、次のようなフィルターを設定した場合、

```
create classifier=10 dvlan=30
create classifier=20 svlan=10
add switch hwfilter=10 classifier=20 action=forward dport=3 (1)
add switch hwfilter=10 classifier=10 action=discard dport=3 (2)
```

VLAN 10 から VLAN 30 宛てのパケットは、1 つ目のエントリー (1) にマッチするためフォワードされると予測できますが、実際には 2 つ目のエントリー (2) が適用され破棄されてしまいます。2 つのエントリーの順番を入れ替えても同じ動作になります。

- IPSADDR と IPDADDR の両方を指定した FORWARD エントリーが複数存在しており、なおかつ、これらのエントリーの IPSADDR が、後続する DISCARD エントリーの IPSADDR に含まれている場合、特定のパケットが意図したとおりに破棄されないことがあります。

たとえば、次の 3 つのフィルターエントリーが定義されている状況を考えます。

1. AS > AD Forward
2. BS > BD Forward
3. ZS > ZD Discard

ここでは説明を簡単にするため、フィルターの条件とアクションを 1 行で表しています。「AS > BS Forward」は AS から BS へのパケットを許可する、「ZS > ZD Discard」は ZS から ZD へのパケットを破棄する、の意味になります。また、AS、BS、ZS、AD、BD、ZD は IP アドレスを示しています。先頭の番号はエントリー番号です。

このとき、アドレス ZS が AS と BS を包含していると（例：ZS = 192.168.0.0/16, AS = 192.168.10.0/24, BS = 192.168.20.0/24）、次の IP 通信が意図したとおりに破棄されません。

- ・ AS > BD
- ・ BS > AD

このようなときは、AS > BD, BS > AD を破棄するエントリーを明示的に追加してください。具体的には次の 3、4 番を追加します。

1. AS > AD Forward
2. BS > BD Forward
3. AS > BD Discard
4. BS > AD Discard
5. ZS > ZD Discard

最後の DISCARD エントリーの IPSADDR (例では ZS) に包含されるアドレスが 2 個より多い場合も同様です。たとえば、次の 4 つのフィルターエントリーが定義されている状況を考えます。

1. AS > AD Forward
2. BS > BD Forward
3. CS > CD Forward
4. ZS > ZD Discard

このとき、アドレス ZS が AS、BS、CS を包含していると、次の IP 通信が意図したとおりに破棄されません。

- ・ AS > BD, AS > CD
- ・ BS > AD, BS > CD
- ・ CS > AD, CS > BD

このようなときは、先ほどの例と同様に、AS > BD, AS > CD, BS > AD, BS > CD, CS > AD, CS > BD を破棄するエントリーを明示的に追加してください。

5.8 スタティックルートの設定について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (スタティック)」

ADD IP ROUTE コマンドでスタティックルートを設定する場合、NEXTHOP パラメーターで指定するネクストホップルーターの IP アドレスは、INTERFACE パラメーターで指定する IP (VLAN) インターフェースと同じサブネットにある必要があります。異なるサブネットに属する IP アドレスを指定した場合は、エラーによりコマンドは実行されません。

5.9 PIM について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

本製品の ASIC は、OIF から受信したマルチキャストパケットを CPU に転送しないため、OIF からマルチキャストパケットを受信したときでも Assert メッセージは送出されません。このため、隣接ルーターが存在する OIF に対しては、マルチキャストパケットを受信したか否かにかかわらず、Assert メッセージを送出します。

5.10 コンパクトフラッシュカードの取り付けかた

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

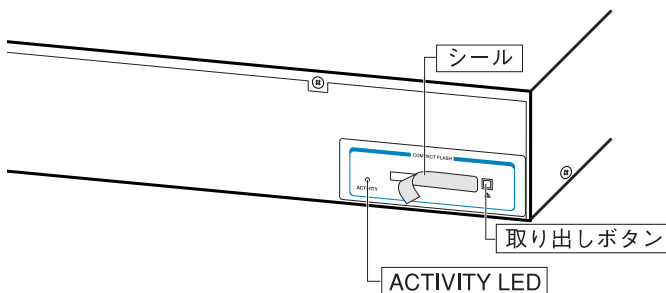
本製品には、オプション（別売）で、コンパクトフラッシュカード（以下、CF カードと省略します）「AT-CF-128A-001」が用意されています。外部記録メディアとして、ファームウェアや設定ファイルの保存が可能です。

- ▶ 弊社販売品以外の CF カードでは動作保証をいたしませんのでご注意ください。
- ▶ CF カードのデータは他の CF カードリーダーでも操作が可能のため、取り扱いには充分ご注意ください。
- ▶ 本製品は FAT16 フォーマットの CF カードに対応しています。FAT32 や NTFS フォーマットの CF カードは、コンピューターで FAT（FAT16）にフォーマットしてからご使用ください。

本製品に CF カードを取り付ける手順は以下にしたがってください。

- ▶ CF カードはホットスワップ対応のため、取り付け / 取りはずしの際に、本製品の電源を切る必要はありません。

1. ご購入時には、CF カードスロットをシーリングしてあります。CF カードを使用する際にはシールをはがしてください。



2. CF カードをスロットにしっかりと奥まで差し込みます（CF カードが挿入されると、取り出しボタンが飛び出ます）。

CF カード使用時の ACTIVITY LED の表示は以下ようになります。

色	状態	表示内容
緑	点滅	CF カード挿入時に一回点滅します。
	点灯	CF カードにアクセスしているときに点灯します。

CF カード挿入時、カードが正しく認識されると、以下のようなメッセージが表示されます。

Info (1106268) : Compact flash card initialisation successful.

CF カードが正しく認識されなかった場合、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

Error (3106300) : Compact flash card initialisation unsuccessful.

さらに、SHOW CFLASH コマンドを使用して、CF カードが正しく認識されているか確認することができます。

(正しく認識されている場合)

.....(省略).....

Card Information:

Hardware detected.....Yes

.....(省略).....

(正しく認識されていない場合)

.....(省略).....

Card Information:

Hardware detected.....Yes (Invalid)

.....(省略).....

CF カードを取りはずす場合は、取り出しボタンを押して CF カードを引き抜きます。

▲ CF カードへのアクセス中 (ACTIVITY LED 点灯中) に、CF カードを取りはずさないでください。
データが破損する恐れがあります。

CF カード上のファイル操作などについては、コマンドリファレンスをご参照ください。

6 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド
ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。
ALARM, APPIetalk, CLNS, ETH, GARP, GRE, GUI, HTTP, IPX, L2TP, LDAP, LOADBalancer, LB, PIM6, PKI, PPP, RSVP, SA, SSL, STAR, SYSTEM SYSR
- 以下のコマンド (パラメーター)
下線が引いてあるコマンド (パラメーター) は「コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C) に記述があります。

COPY
 DUMP
 START PKT
 STOP PKT
 SET PKT
 SET SYSTEM TEMPTHRESHOLD
 TRACE [ADDRONLY]
 PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS]
 [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
 SET PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS]
 [SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
 SHOW SWITCH SOCK
 SHOW SWITCH TABLE
 SET SWITCH SOCK
 SET SWITCH PORT [JUMBO] [MIRROR=(BOTH;TX)]
 [SPEED={10MHAUTO;10MFAUTO;100MHAUTO;100MFAUTO;
 1000MHAUTO;1000MFAUTO;1000MHAF}]
 ENABLE/DISABLE SWITCH BIST
 SET SWITCH BLADE
 RESET SWITCH BLADE
 SHOW SWITCH HOTSWAP
 ADD/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
 ADD/SET/SHOW IP SA
 SET IP INTERFACE [VJC]
 SHOW IP CACHE
 SHOW IP POOL
 SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
 SHOW IP ROUTE MULTICAST
 SHOW IP FLOW
 ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
 ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
 ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE


```
CREATE QOS TRAFFICCLASS [PRIORITY]
CREATE QOS FLOWGROUP [PRIORITY]
CREATE QOS TRAFFICCLASS [STATUS]
SET QOS PRIORITYQUEUEING
SET QOS VLANQUEUEMAP
SET QOS TRAFFICCLASS [STATUS]

ADD/SET/DELETE DVMRP DLC
ADD/SET/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRRESH]

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCES
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
ADD/DELETE FIREWALL POLICY RULE [LIST=RADIUS]
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE ENCO KEY TYPE={DES;3DES2KEY;3DESINNER;GENERAL} [MODULE]
[ {RANDOM;VALUE} ] [FORMAT={HEX;NIQ}]
ENABLE/DISABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO MODULE
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES;HMAC;JOBPROCESSING;PRED;STAC;
USER;UTIL}

SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]
```

7 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.5 (J613-M6933-01 Rev.C)」は弊社 Web サイトに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web サイトで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M6933-01 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>